

令和4年度 第2回伊豆市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和5年1月17日（火）15時～

場所：生きいきプラザ 市民文化ホール

出席者：委員20名（欠席1名）

アドバイザー1名、他4名、事務局3名

1 開会

2 会長挨拶

<市長挨拶>

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。新年早々に4つの完成式が行われ、伊豆市の未来に向けての形が、一つ一つ具体的に見えてきた気がします。

他方、人口減少と少子高齢化が厳しくなる中で、市民の買い物・通院の足が課題となっています。それに加え、財源が厳しく、地域振興基金を取り崩している状況です。厳しい状況ですが、いよいよ市民に使っていただけない路線は断念せざるを得ない状況になると思います。これを急にやるわけにはいかないので、しっかりと地域の皆様にもう1度バスを使うか、どうお考えか、率直に説明する状況になろうかと思ひます。まずは、喫緊の課題について一つ一つご審議いただければと思ひます。よろしくお願ひします。

3 委嘱状の交付

4 議題

(1) 次年度運行に係わる協議事項について【資料1】

①地域間幹線系統確保維持改善事業について【資料1-1、補足資料1】

<資料説明>

- ・事務局より概要説明（資料1）
- ・事業者より資料説明（資料1-1）
- ・静岡県より補足説明（補足資料1）

②事業者運行路線について【資料1-2】

<資料説明>

- ・事務局より概要説明（資料1）
- ・事業者より資料説明（資料1-2）

③伊豆市自主運行路線の運行について【資料1-3】

<資料説明>

- ・事務局より資料説明（資料1-3）

<質疑応答>

委員 : 伊豆市として、地域間幹線系統については非常に重要な路線と考えているので、引き続き国県の補助を得て維持していく必要があるという考えでよろしいか。また、事業者運行路線の湯ヶ島線については、現時点では自主運行バスにするのではなく、協議の段階だという認識でよろしいか。

事務局 : そのとおり。

委員 : 自主運行路線の修善寺・伊東線の欠損額の資料記載額は伊豆市の負担分だけで、これ以外に伊東市負担分もあるという理解で良いか。

事務局 : そのとおり。

委員 : 予測するに赤字額は 2500 万円近くなると思うが、この路線を自主運行路線として残す必要があるのか。また、中伊豆温泉病院も約 1000 万円欠損がでる路線をそのまま続ける必要があるのか。それから修善寺筏場線等の中伊豆線が約 2500 万円であるが、昨年度の見積と比べてどうなっているか。

事務局 : 修善寺伊東線は、乗降者もいるので削るのもなかなか難しいと考えているが、今後検討していく路線である。

温泉病院線については、新病院ができるまで、地元の方を交えて検討していく。中伊豆線については、令和 4 年度からの路線なので、前年度と比較する資料がない。

委員 : 中伊豆線については、見積をとって予算をとってあるので比較はできないのか。

事務局 : 見積の時点では令和 2 年度のキロ単価でとっているのですが、比べると令和 4 年度にかけてキロ単価が上がっているため、そういった意味では上昇傾向にあるととらえている。

委員長 : 市民の利便性を低下させるのも困難だが、財政も厳しいので、このまま将来も継続していくという意味ではない。一方、温泉病院の地元ではバスを残してくれという要望もある。収支のご指摘については、燃料高騰などの状況が落ち着くまでは注視せざるを得ないと考えている。

<議決>

- ・「異議なし」のため承認

(2) 戸田・土肥線の路線の延長について【資料 2】

<資料説明>

- ・沼津市より説明 (資料 2)
- ・事務局より説明

<質疑応答>

委員長 : 伊豆市内のみ乗降している方は、戸田からくる車や戸田へ行く車がないのに、伊豆市へ呼び寄せて乗降しているのか。

沼津市 : 手元の資料ではわからない。

アドバイザー：沼津市側で発着があれば伊豆市としては使わせてもらい、伊豆市内完結だけであれば負担ができるのであれば、協議のうえで提案してもらいたいと思うがいかがか。

沼津市：沼津市としては伊豆市から一部負担をもらえるのであれば、いままでどおりの乗降は可能。

国交省：基本的には沼津市の協議会で了承してもらえれば良いが、伊豆市までの路線になるので「路線を伸ばす」と「バス停をどこに置くか」が伊豆市の会議で整えばよい。

委員長：広域行政は絶対必要。駿河湾フェリーも厳しい状況の中で、法律で許される範囲の中で、伊豆半島みんなで広域連携をしっかりとやりたいと思っている。そういった背景の中で、沼津市さんに不公平にならない中で協議していきたい。

国交省：バス停の位置だが、示している位置だと車や人の往来があると思うが大丈夫か。

沼津市：駿河湾フェリーからはこの場所で良いと言われているが、再度確認する。

国交省：警察とも協議してください。

委員長：バス停を別場所となったときに、事業者路線のバス停を使うことは可能なのか。

事業者：事業者側からどうとは言えない。

委員長：事務局で検討してください。

事業者：土肥港からの利用は伊豆市内で降りられないのか

沼津市：今検討しているものは、土肥港から乗れる方は、戸田地区で降りる方のみ予約を受け付けることを考えている。

委員：今の時刻表だと、フェリーの降車客と重複するので、混雑すると思われる

委員長：実務を担っている方で検討してください。

委員：今まではフェリーを利用した方は土肥か松崎方面にしか行かなかったものが、戸田方面に行けるようになるため、伊豆市は小土肥地区まで行けるように負担等をしていただきたい。

委員長：沼津市と協議する。

委員：フェリーターミナルについては、現在、静岡県港湾課が整備をしているのでそちらも問い合わせ先に加えていただきたい。

<議決>

- ・「路線の延長」については、承認
- ・「バス停の位置」、「伊豆市内のみの運行」については、継続協議

(3) 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の推進状況について【資料3】

<資料説明>

- ・事務局より説明（資料3）

<意見>

アドバイザー：厳しい中でやってきたものと思っており、進捗状況としては感覚としてはこのとおりだと思う。(4)の議題のようなことを来年度以降きちんとやっていくことだと思う。

(4) 中伊豆温泉病院移転に伴う既存路線の運行について【資料4】

<資料説明>

- ・事務局より説明(資料4)

5 その他

6 閉会